

令和6年度 第2回岡山市自然環境保全審議会

令和6年12月17日
岡山市環境局環境部環境保全課

◆本日の審議事項◆

1. 第1回岡山市自然環境保全審議会の審議事項
に対する指摘事項と対応方針について
2. (仮称)生物多様性おかやまプランの方向性
3. 岡山市の現状と課題
4. めざす将来像(案)と施策体系の頭出し

◆参考資料について◆

【参考資料1】第1回自然環境保全審議会の指摘事項と対応方針

【参考資料2】戦略の目次構成、図表一覧

【参考資料3】(仮称)生物多様性おかやまプラン 骨子案

【参考資料4】岡山市地域特性の整理結果

【参考資料5】中高生・市民・事業者アンケート結果報告書

【参考資料6】第2回ワークショップ実施報告

※適宜、お手元にてご参照ください。

1. 第1回岡山市自然環境保全審議会の審議事項 に対する指摘事項と対応方針について

第1回岡山市自然環境保全審議会の審議事項に対する 指摘事項と対応方針について

< 審議事項1: (仮称) 生物多様性おかやまプランの策定について >

- 動植物リストの更新について ➡ 3件
- おかやまプランへの記載内容について ➡ 3件
- 環境の類型区分について ➡ 1件
- アンケートについて ➡ 4件



追加調査や分析を行うなど、最適な方針にて対応

(参照: 参考資料1)

Design: Suzuna Uchiyama (Chugoku Design College)



2. (仮称)生物多様性おかやまプランの方向性

2-1 (仮称)生物多様性おかやまプランの内容構成(目次)

2-2 岡山市自然環境保全審議会 各回の審議内容(予定)

2-1 | (仮称) 生物多様性おかやまプランの内容構成 (目次)

< 前回審議会からの変更点(赤枠の箇所) >

第1章 計画の基本的事項

- 1 計画改定の背景及び趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 生物多様性について
- 4 改定の背景

第2章 岡山市の生物多様性の現状と課題

- 1 岡山市の概況
- 2 岡山市の自然の概況
- 3 岡山市の生物多様性の概況
- 4 岡山市生物多様性地域戦略におけるこれまでの取組
- 5 中高生・市民・事業者アンケート
- 6 岡山市の生物多様性を取り巻く課題

第3章 岡山市がめざす生物多様性

- 1 めざすべき将来像
- 2 施策の体系
- 3 基本戦略
- 4 状態目標
- 5 行動目標

第4章 施策の展開

第5章 重点プロジェクト

第6章 計画の推進・進行管理

- 1 推進体制・進行管理
- 2 指標設定による成果確認

(参照:参考資料2)

Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)



2-2 | 岡山市自然環境保全審議会 各回の審議内容 (予定)

審議内容	R6年度		
	第1回	第2回	第3回
	R6.8.22	R6.12.17	R7.2月頃
1. (仮称) 生物多様性おかやまプランの方向性			
・内容構成 (目次)	●		
・策定の視点			
・改定の背景、国内外の動向	●		
・市の方針、重視する事項	●		
2. 現状と課題			
・社会状況		●	
・自然状況		●	
・生物多様性の状況			
・生物相の状況	●	●	●
・地域区分、地域特性	●	●	●
・課題、取組むべき事項		●	●

審議内容	R6年度		
	第1回	第2回	第3回
	R6.8.22	R6.12.17	R7.2月頃
・市民意識の把握(1)：アンケート調査			
・市民／事業者／中高生	●	●	
・市民意識の把握(2)：ワークショップ			
・市民、保全団体 (第1回：R6.7.21)	●		
・大学生 (第2回：R6.11.9)		●	
・企業、保全団体 (第3回：R6.11.30)			●
3. (仮称) 生物多様性おかやまプランの理念、将来像			
・理念、将来像	●	●	
4. 施策体系			
・目標		●	●
・施策、重点プロジェクト			●
・指標			
◆素案			
◆パブコメ (R7.12想定) を踏まえた最終案			



3. 岡山市の現状と課題

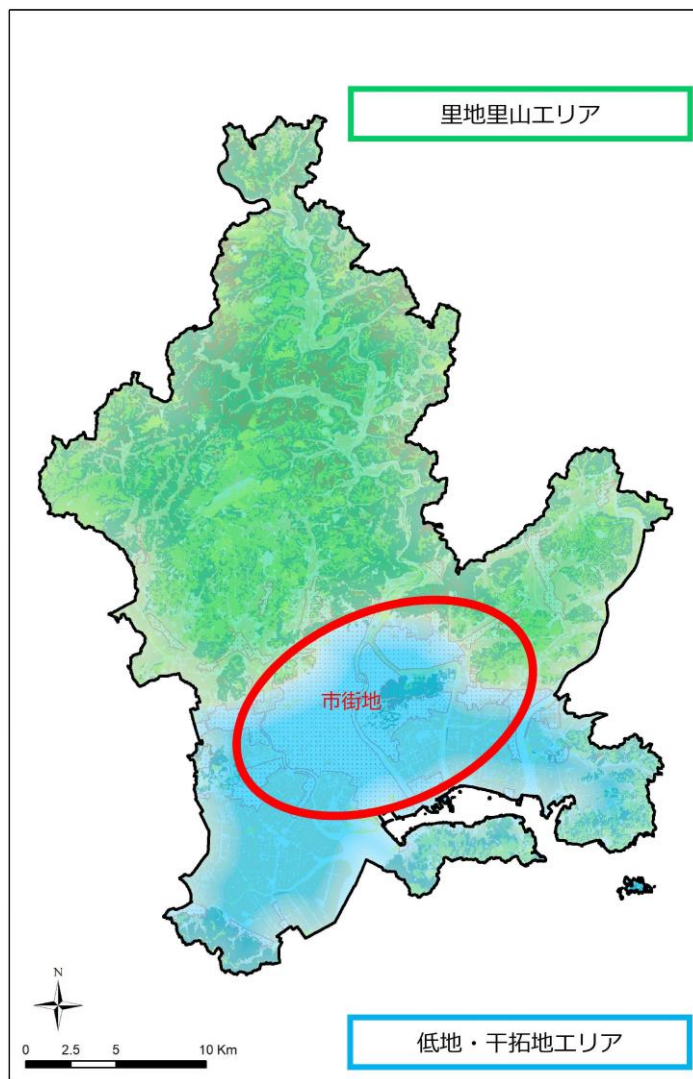
3-1 岡山市の地域区分と課題の整理

3-2 市民意識の把握①:アンケート調査結果

3-3 市民意識の把握②:ワークショップ

岡山市の地域区分と課題の整理

(1) 岡山市の自然特性から見た地域区分



- 岡山市の地形や植生、生物相などを解析し、「里地里山エリア」、「低地・干拓地エリア」の2つに区分した
- 上記2つのエリアにまたがり、人口が集中し自然の様相が異なっている市街地については、異なる環境として「市街地」に区分した
- 「里地里山エリア」、「低地・干拓地エリア」、「市街地」の区分で、現況の把握および課題の整理を行った



今後、水系およびみどりの軸で、生態系ネットワークを示す予定

(参照:参考資料3のP41~50)

Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)



(2) 課題の整理 ① 「生物多様性」の視点から

里地里山エリア	低地・干拓地エリア	市街地
<p>■ 特徴と強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市域の樹林面積の大半が存在し、樹林性の動植物の生息生育環境としての機能 ・ 丘陵地に形成された谷戸や棚田の存在など里地里山の生態系が成立 吉備高原の南端に位置する谷戸や水田地帯では、魚類の法令指定の希少種が生息する ・ 岡山県レッドリストで絶滅危惧ランク（CR+EN、VU カテゴリー）の種が多く確認されている生物多様性ホットスポットが足守川上流域や旧建部町、旧御津町、瀬戸町、龍ノ口山周辺に存在 <p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市化の進行による生物の生息環境の減少 ・ 高齢化や人口減少による耕作放棄地や荒廃樹林、竹林の拡大 ・ 獣害の増加による生物の生息環境の変化 ・ 水路と水田のネットワークの分断化 	<p>■ 特徴と強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主に低地、干拓地で広大な水田を中心とした耕作地地帯で、干拓地への水供給のために引かれた水路網が形成され、旭川、百間川、吉井川の汽水域のヨシ原や干潟の存在や、児島湖の発達したヨシ原など、水辺の生きものの生息生育環境として機能 ・ 岡山県レッドリストで絶滅危惧ランク（CR+EN、VU カテゴリー）の種が多く確認されている生物多様性ホットスポットが児島湖周辺の干拓地でみられ、植物、魚類の希少種の確認数が多い <p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市化の進行などにより、野生生物の生息環境の減少 ・ 干潟などの消失 ・ 水辺のコンクリート化 ・ 水路と水田のネットワークの分断 	<p>■ 特徴と強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡山城や後楽園、半田山植物園などの都市公園も市街地では貴重な緑のまとまった空間となっている ・ 市街地の水路網は暗渠にならずに残っており、西川緑道公園などの緑道が水路沿いに整備されている ・ 旭川、百間川、吉井川、笹ヶ瀬川、足守川の河川敷や法面、都市緑地が里地里山エリアと低地・干拓地エリアとの水と緑の導線となっている ・ 市街地の緑地や水路は希少種の生息生育環境となっている <p>■ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口の集中に伴う身近な自然の消失 ・ 水辺のコンクリート化 ・ まとまった緑が少なく、緑が分断されている

(参照:参考資料4)



② 「生態系サービス」の視点から

里地里山エリア	低地・干拓地エリア	市街地
<p>■特徴と強み</p> <p>＜供給サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・山地の広い森林の特徴を活かしたシイタケ栽培・丘陵部におけるマスカット、ピオーネ、もも、あたご梨などの果樹栽培 <p>＜調整サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・森林による気温上昇抑制、水源涵養、土砂流出の防備機能 <p>＜文化的サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・レクリエーションの場として吉備清流県立自然公園、吉備史跡県立自然公園、吉備路風土記の丘陵立自然公園、吉井川中流県立自然公園・山並みと調和した棚田や山裾に分布する歴史的な街並みや文化財と一体化した農地や庭瀬、西大寺などの旧街道沿い、門前町などの歴史的街並などの景観 <p>＜基盤サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・森林による酸素供給、水循環 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none">・山地、丘陵地における人口減少による森林荒廃による水源涵養、土砂流出の防備機能の低下	<p>■特徴と強み</p> <p>＜供給サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・平野部では稲、小麦、レタス、玉ねぎ、蓮根などの栽培・児島湾における海苔の養殖や、クルマエビ、サワラ、アナゴなどの海洋資源の利用 <p>＜調整サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・水田による気温上昇抑制や洪水時の防災・減災機能 <p>＜文化的サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・瀬戸内海の恵みを活かしたママカリを使った郷土料理・レクリエーションの場として瀬戸内海国立公園・児島湾と漁村集落、背景の山並みが一体となった景観・干拓に係る歴史、文化遺産 <p>＜基盤サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ヨシ原、干潟の水質浄化機能 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none">・市街地近郊における人口増加による開発で耕作地面積の減少や防災・減災機能の低下・干潟やヨシ原の縮小による水質浄化機能の低下や海産物の減少	<p>■特徴と強み</p> <p>＜調整サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・都市公園や都市緑地による気温上昇抑制機能 <p>＜文化的サービス＞</p> <ul style="list-style-type: none">・レクリエーションの場として岡山城、後楽園などの都市緑地や吉井川、旭川、百間川などの河川 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none">・緑地が少なく分断されている

(参照:参考資料4)

Design: Suzuna Uchiyami (Chugoku Design College)



③ 「保全活動等」の視点から

里地里山エリア	低地・干拓地エリア	市街地
<p>■特徴と強み</p> <ul style="list-style-type: none">・「瀬戸アユモドキを守る会」と「キリンビール岡山工場」が協働で、工場内のビオトープでアユモドキの保護・増殖を行っている・身近な生きものの里事業では20 団体が認定されていて、多くの保全活動がなされている <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none">・山地や丘陵地における企業と連携した保全活動はない・山地、丘陵地は生態系の基盤サービス、調整サービス機能が高いエリアだが、人口減少による森林荒廃が進んでいる・保全活動の場としてもポテンシャルは高いが、次の担い手の確保が急がれる・企業の保全活動の場としての利活用や情報発信について検討が必要なエリアである	<p>■特徴と強み</p> <ul style="list-style-type: none">・自然共生サイトとしてコンケンビオガーデン・コンケンセラピーガーデンが認定されている・身近な生きものの里事業では7 団体が認定されている・小学校によるアマモの育成活動や、広いヨシ原でチュウヒやサギ類などが生息する阿部池、吉井川の河川敷におけるハマウツボの保全、水路におけるホタルやナゴヤダルマガエルの保全などが身近な生きものの里に認定され、岡山市の低地・干拓地や沿岸域の環境に対応した活動がなされている <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none">・里地里山エリアに比べ活動団体が少ない	<p>■特徴と強み</p> <ul style="list-style-type: none">・西川緑道公園でゲンジボタルの保全を行っている・イオンモールがホテルの保全に協力している <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none">・保全活動の場が少ない

(参照:参考資料4)



3-2 市民意識の把握①：アンケート調査結果

- 中高生、20歳以上の市民、事業者の岡山市の自然への関心度、言葉の認知度、生物多様性保全の取組や関心、これまでの取組の評価などについて確認しました。

属性	回収率 (%)	配布数	回収数
学生	88.5	592	524
市民	27.9	1,500	419
事業者	47.0	300	141

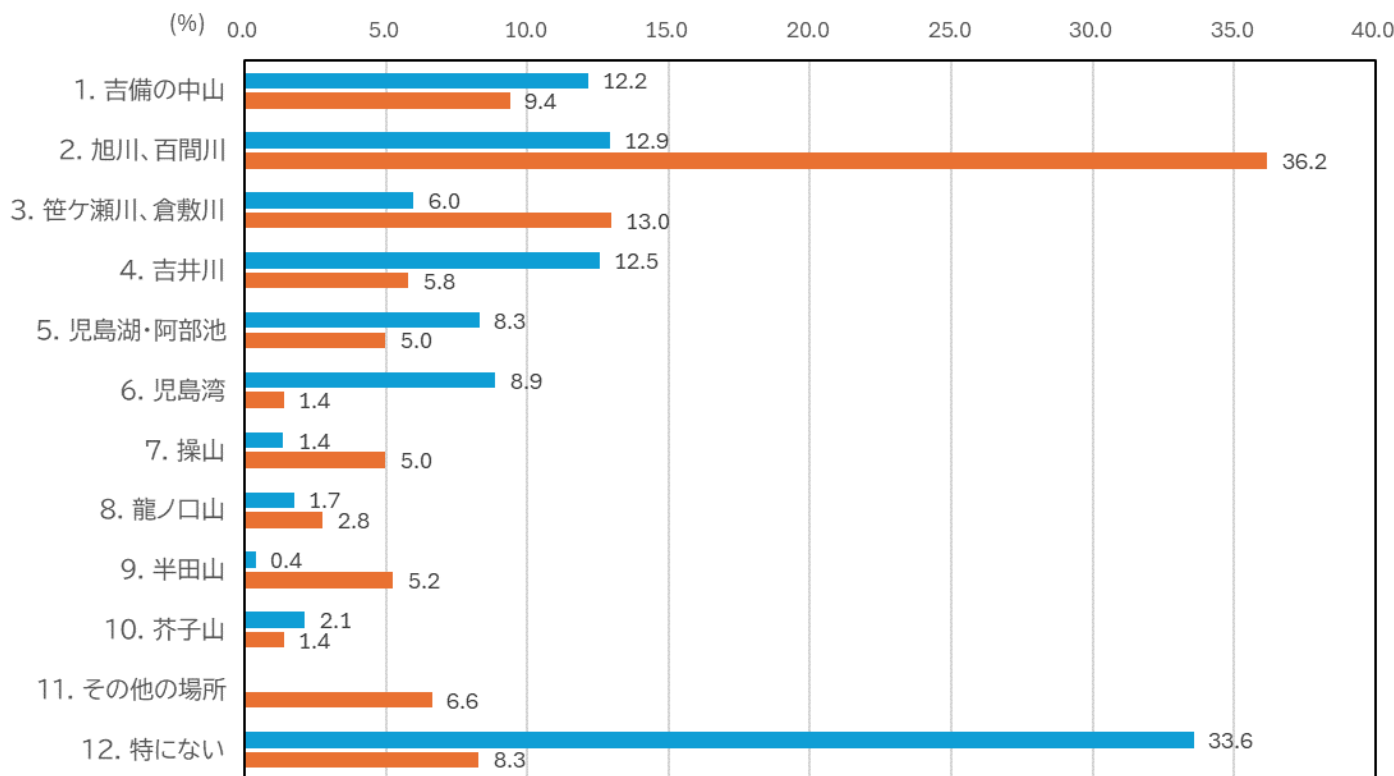
(参照:参考資料5)

Design: Suzuna Uchiyama (Chugoku Design College)



(1) 岡山市の身近な自然について (中高生・市民)

- 中高生では「特にない」の33.6%を除き「旭川、百間川」が12.9%で最多
- 市民でも36.2%で最も多い
- 「旭川、百間川」が幅広い世代の市民から身近な自然として認識されている



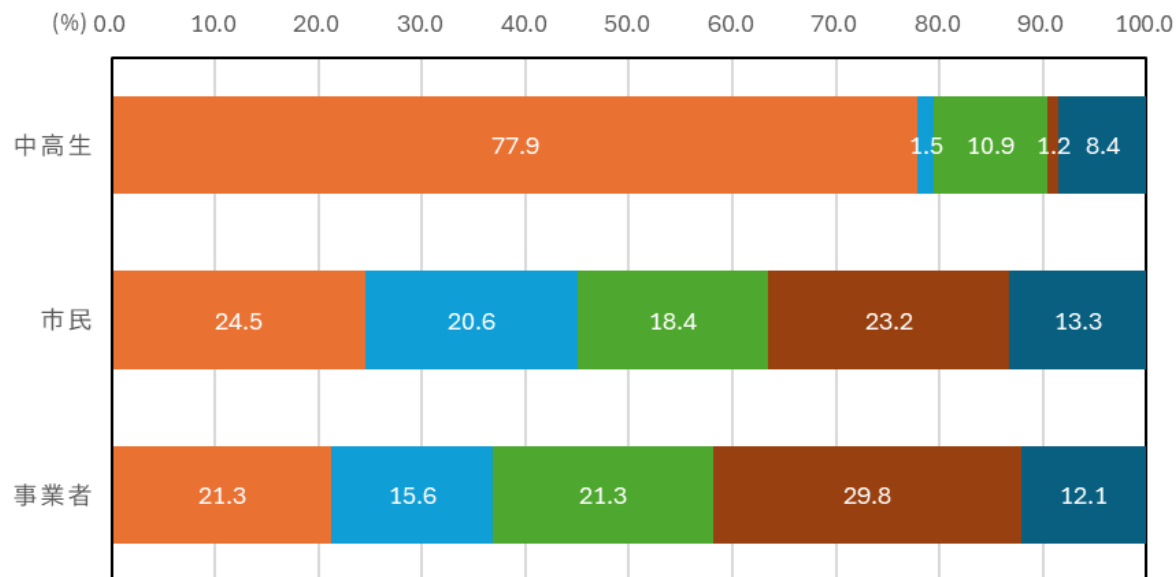
(参照:参考資料5)

Design: Suzuna Uchiyami (Chugoku Design College)



(2) 岡山市の自然について (中高生・市民・事業者)

- 中高生は「自然が豊かで、様々な生きものがある」と感じている人が多いが、身近な岡山の自然については「特にない」という回答が多いことから、漠然と自然の豊かさを感じてはいるが、身近な自然との接点は少ない
- 市民及び事業者は5つの選択肢を占める割合が分散



1. 自然が豊かで、様々な生きものがある
2. 自然は減少しているが、様々な生きものがある
3. 自然は豊かだが、生きものの種類は減少している
4. 自然、生きものの種類ともに減少している
5. わからない

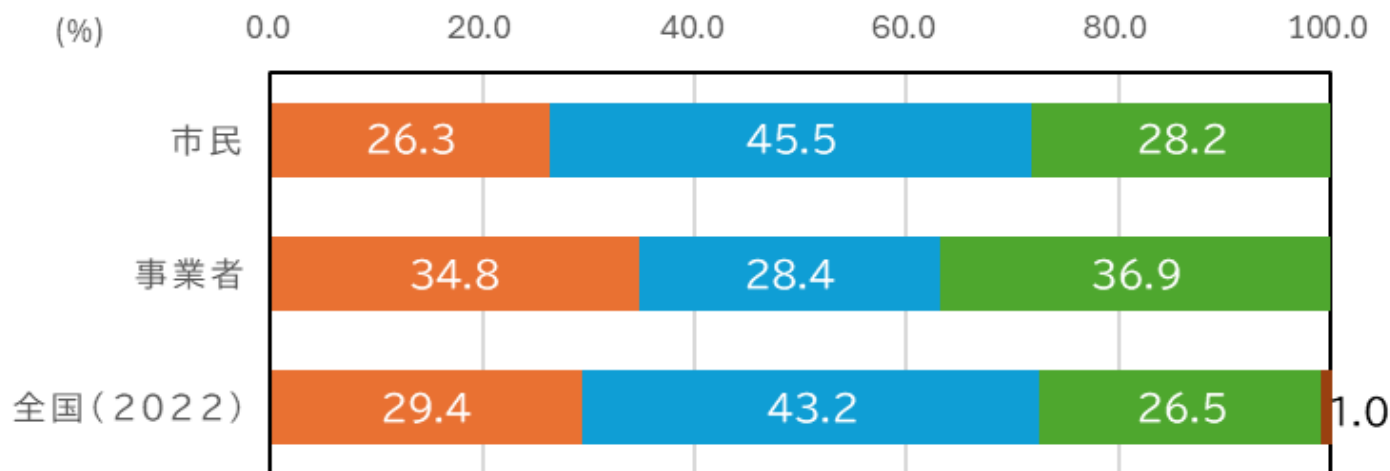
(参照:参考資料5)

Design: Suzuna Uchiyama (Chugoku Design College)



(3) 生物多様性の認知度 (市民・事業者)

- 市民と事業者とも「知っている」あるいは「聞いたことがある」が占める割合は全体の約6割～7割と同程度
- 全国と比べると、市民では「知っている」と答えた割合が低いものの、事業者では高い
- 市民でも「聞いたことがある」を含めると、全国での回答割合と同程度



■ 1. 知っている ■ 2. 聞いたことがある ■ 3. 全く知らない ■ 4. 無回答

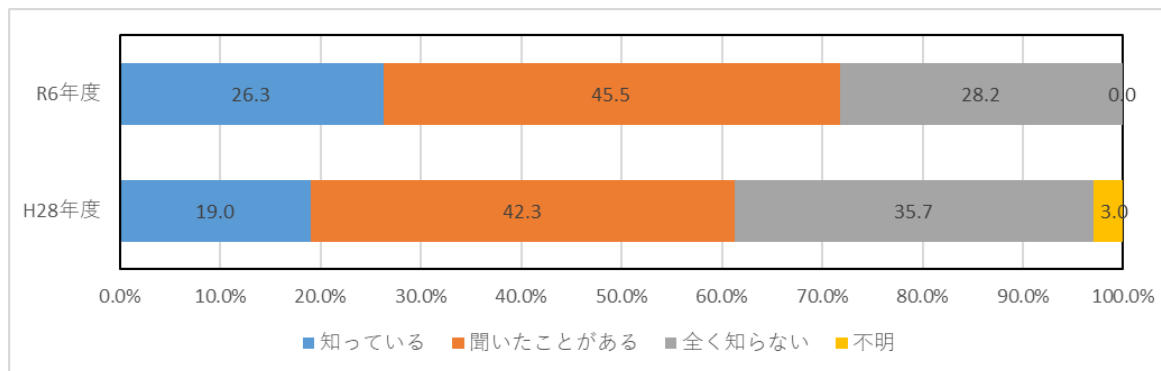
(参照:参考資料5)



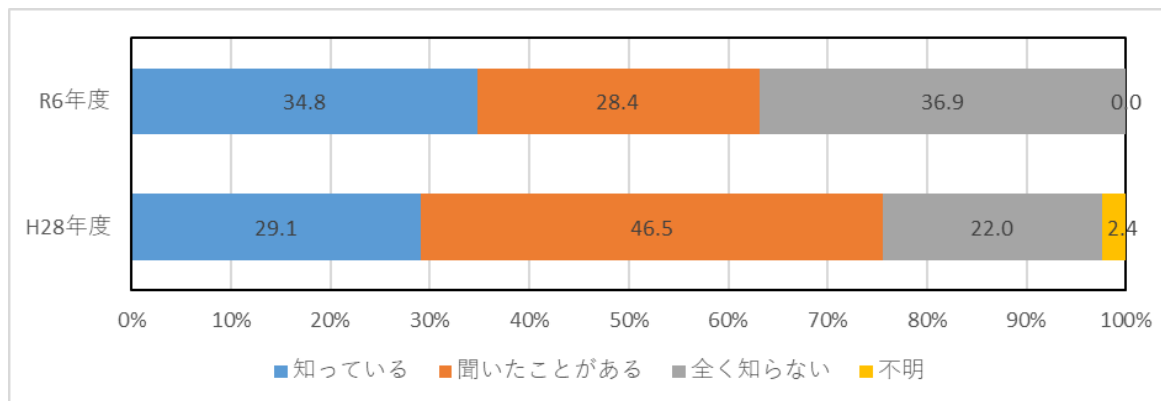
(4) 「生物多様性」の言葉の意味の認知度 (市民・事業者、過去との比較)

- 市民:「知っている」及び「聞いたことがある」の割合がいずれも、R6 > H28
⇒「生物多様性」の全体としての認知度は増加している。
- 事業者:「知っている」がR6 > H28;「聞いたことがある」R6 < H28
⇒「生物多様性」の全体としての認知度は減少
※事業者の属性割合がH28とR6で異なることに起因している可能性もあり

<市民>



<事業者>



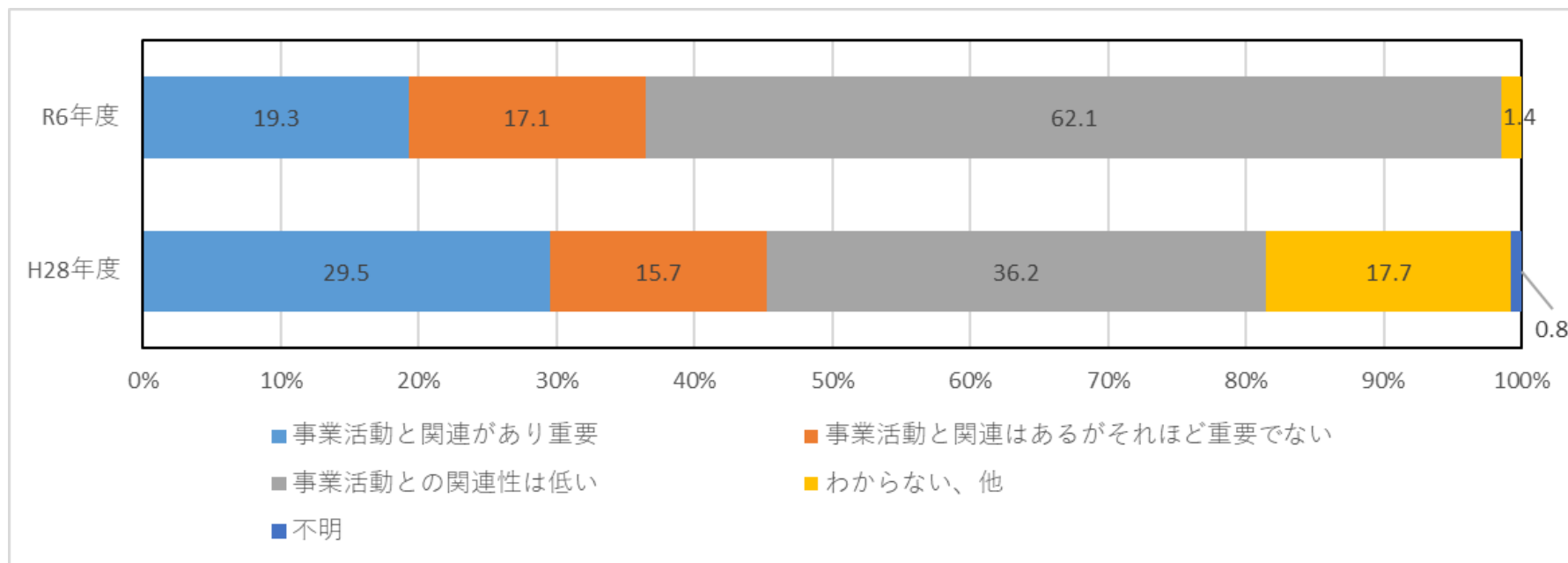
(参照:参考資料5)

Uchiyama (Chugoku Design College)



(5) 事業活動と生物多様性保全の取組との関連性 (事業者、過去との比較)

- R6で「事業活動との関連性が低い」が62.1%を占め、H28から増加
- 「事業活動と関連があり重要」がR6で減少
- 「事業活動と生物多様性には関連がある」という認識が低下
⇒ (回答した事業者の属性の割合がH28とR6で異なることに起因している可能性がある)

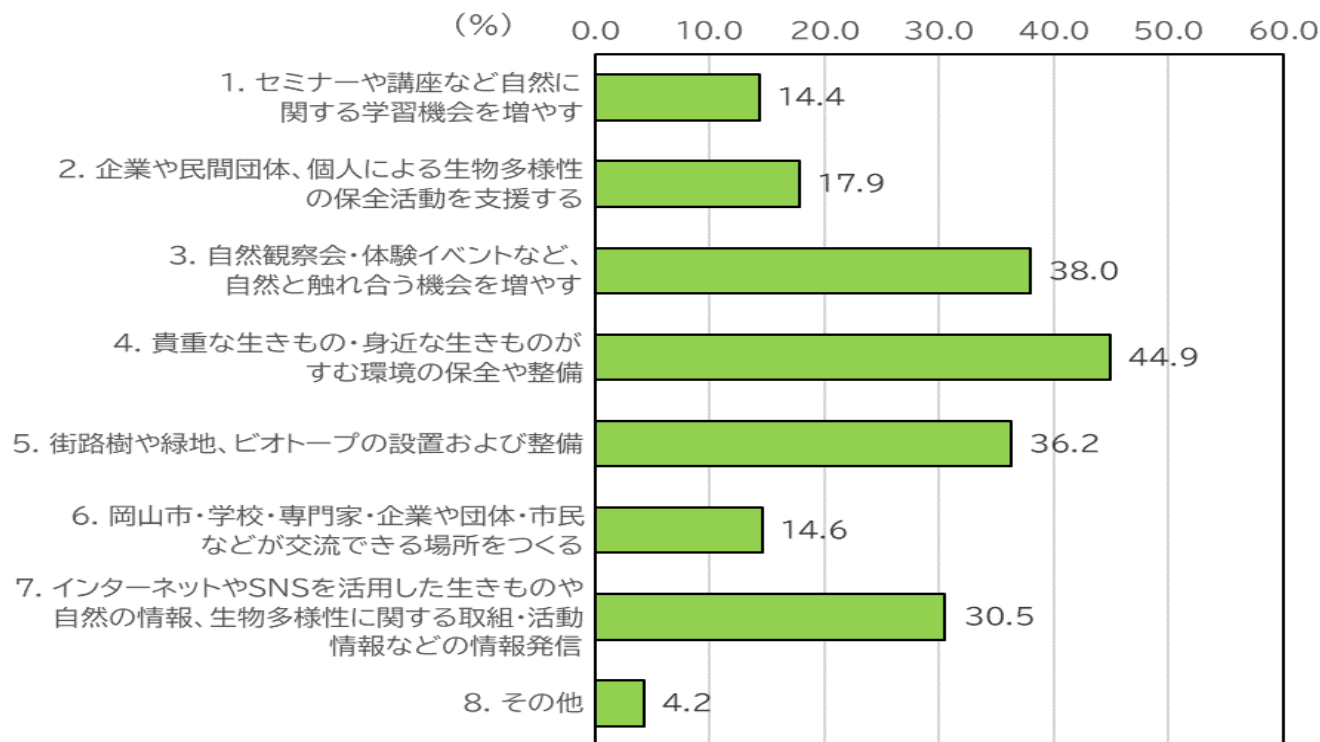


(参照:参考資料5)



(6) 岡山市に力を入れてほしい生物多様性の取組 (市民)

- ・「貴重な生きもの・身近な生きものがすむ環境の保全」、「自然観察会・体験イベントなど、自然と触れ合う機会を増やす」などが多い
- ・「インターネットやSNSを活用した生きものや自然の情報、生物多様性に関する取組・活動情報などの情報発信」も多い



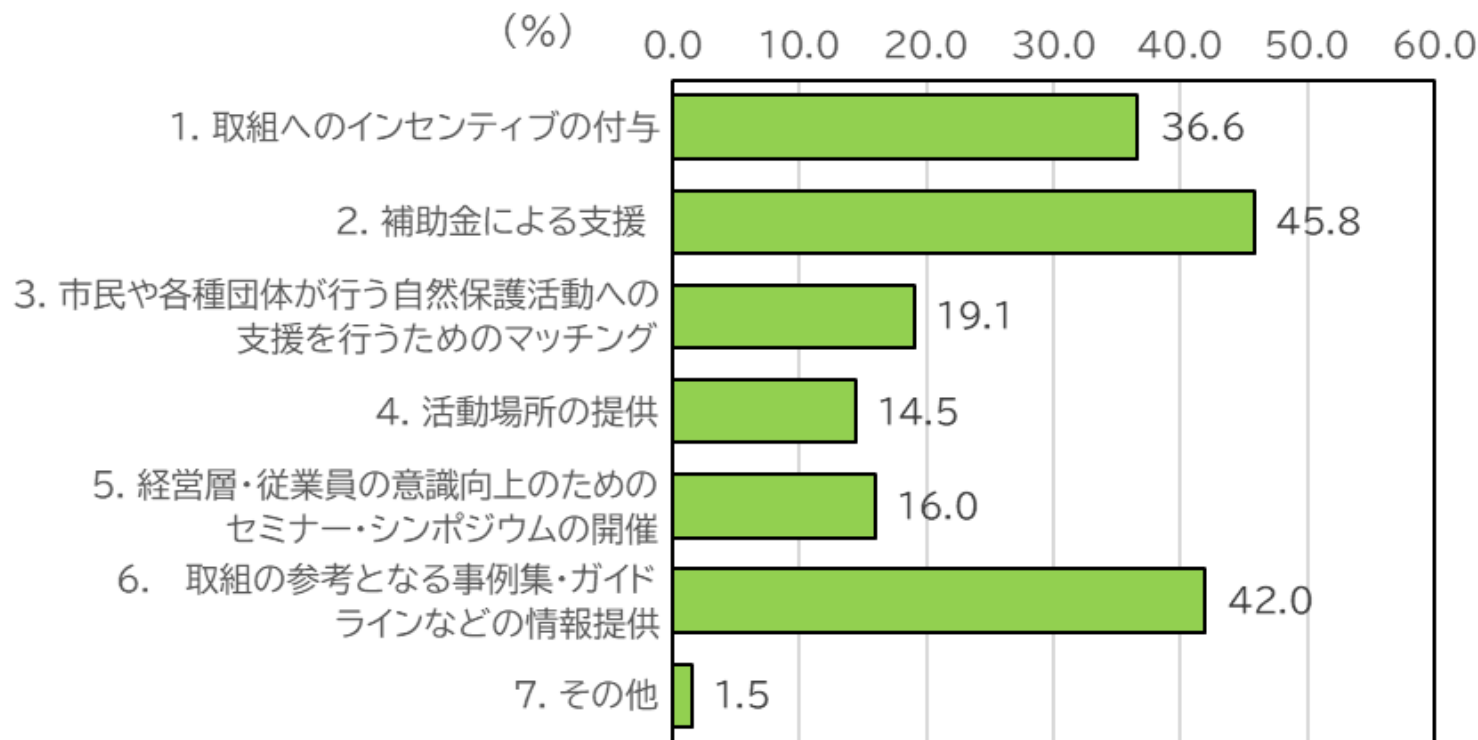
(参照:参考資料5)

Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)



(7) 岡山市に実施して欲しい生物多様性の施策 (事業者)

- 「補助金による支援」(45.8%)、「取組の参考となる事例集・ガイドラインなどの情報提供」(42.0%)、「取組へのインセンティブの付与」(36.6%) が多い



(参照:参考資料5)

Design: Suzuna Uchiyama (Chugoku Design College)



3-3 | 市民意識の把握②：ワークショップ

ねらい	生物多様性に関する情報発信手法
開催日時	令和6年11月9日 13:15~17:00
場所	北ふれあいセンター
参加者	市内在住・在学の大学生(岡山の自然に興味がある方)
参加人数	20名 ・ 大学別:岡山理科大 10名、岡山大学 10名 ・ 出身:岡山市内 1名、岡山県内 3名、岡山県外 16名
座学	・ 講師:岡山市自然環境保全審議会会長 中村 圭司 岡山理科大学教授 テーマ:地域環境の変化が昆虫に与える影響について
グループワーク	・ 岡山市身近な生きものの里事業 認定地区「龍泉寺(りゅうせんじ)」をモデル地区にシミュレーション形式で情報発信方法を考える
ゴール(目標)	・ 情報発信手法の提案 ・ 若者が考える岡山市の生物多様性の保全や利活用に対する意見収集



(参照:参考資料6)

Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)

(1) 生物多様性に関する情報発信手法 (参加者意見1)

◆どのような方法や媒体から保全活動の情報を取得しますか

- 学校 (サークル、友人、教員経由、掲示板、ポスター)
- ネット (google検索、SNS)
- 公的機関 (博物館など)
- 家族

◆保全活動に参加しようと思える理由や条件は何ですか

- 活動する場所のシンボリックな情報の適切な発信がある (絶滅危惧種や景観など)
- 参加することに対するインセンティブがある (炊き出し等のアウトドア要素、金銭的補助など)
- 活動内容が自分に合っているか、初心者でもできそうな内容なのか、作業にサポートがあるのかなどの情報がある
- 物理的な距離の近さ
- ピクニックのようなフランクな体験といったレクリエーション的魅力がある
- 活動の詳細を質問できる窓口があり、具体について聞ける
- 最初は学校行事等、半強制的に参加するような仕組みがある
- 就職活動と繋がるような企業とのコラボがあれば保全活動参加の動機になる



(参照:参考資料6)

Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)

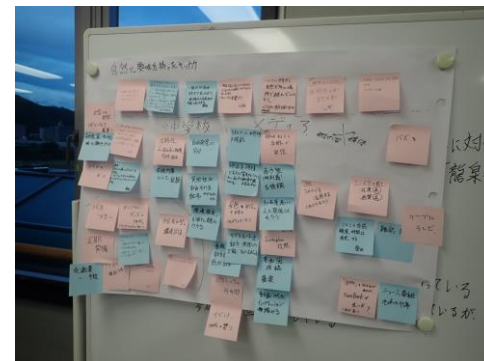
(2) 生物多様性に関する情報発信手法 (参加者意見2)

◆ 保全活動をする側ならどのような情報発信手法が効果的と思いますか

- 学校と連携した情報発信
- X経由でインスタグラムへ誘導する情報発信の仕方が効果的
- アナログな方が効果的な可能性があるので、チラシにQRコードをつけてSNSに誘導
- 実用性があるもの (クリアファイル・学習ノートなど) に印刷して学校・博物館・図書館などで配布
- 大型商業施設での触れ合い体験や珍しい動植物の展示といったイベントで興味を持ってもらう

◆ その他の意見やアイデア

- イベントカレンダーのような情報が集約されているサイトを作る
- 市主催の学習講座を開き、市長認定の資格を与えるような仕組みがあれば保全活動に参加する動機になる
- 自然に関しては、幼少期・中高生時代の体験が大きいのので、幼少期に自然に親しむ経験させなくてはいけない
- 小中学校の行事、総合学習として授業に組み込めば原体験となる
- 保全活動の場を周辺地域の観光スポットなどと抱き合わせてモデルコースとして紹介
- 岡山市のHPをみれば安全な活動団体が確認出来るようにしておく



(参照:参考資料6)

Design: Suzuna Uchiumi (Chugoku Design College)

(3) 施策につながる意見、提案等

(参照:参考資料6)

◆生物多様性に関心、興味を持ってもらうための手法

- ・市独自の生物多様性資格認定制度があれば、活動参加の動機づけになる。
- ・観光のモデルコースに保全活動を組み込む。
- ・学校と連携した情報発信や企業と連携した生物多様性関連の活動やイベントが有効な手段となりそう。
- ・学校行事として体験させれば多くの子供の原体験になる。

◆情報発信の方法やツール

- ・SNSでの発信だけでなく、アナログな手法での情報発信も効果的。
- ・情報発信ツールとしてはインスタだけでは不十分で、Xからインスタに誘導するなど様々なツールを使った情報発信をする方がいい。
- ・岡山市のHPをみれば安全な活動団体か確認出来るようにしておく（SNSの情報だけだと入りすましサイトの不安がある）。
- ・生物多様性関連の情報がまとまったサイトがあれば、ツールとして有効。
- ・活動のシンボリックな情報が適切に発信されていることや、自分でもできそうと思ってもらえるような情報発信が必要。

◆その他施策に取り込めそうな意見など

- ・企業と連携した生物多様性関連の活動やイベントがあれば学生、企業とのマッチングとして有効な手段となりそう。
- ・自然に関しては、幼少期・中高生時代の体験が大きいので、幼少期に自然に親しむ経験させなくてはいけない。そのために、生物多様性を小中学校の行事、総合学習として授業に組み込んだり、子供を自然に触れさせたい親のための親子参加型のイベントをする。

Design: Suzuna Uchiyama (Chugoku Design College)



4. めざす将来像(案)と施策体系の頭出し

めざす将来像（案）と施策体系の頭出し （１）めざす将来像（案）

参考にした意見など

【現状と課題】

生態系サービスによる恵みを享受しているが、様々な課題が見られる
水辺のネットワークの分断化
荒廃樹林、耕作放棄地の増加、竹林の拡大

【第1回ワークショップで市民から寄せられた意見】

様々な環境で生物の減少がみられる
普通種の減少が起こっている
季節が感じられるまちになればいい
若い世代が自分の地域を好きになるようなまちになればいい



(1) めざす将来像 (案)

(仮称) 生物多様性おかやまプランでの将来像 (案)	
案1	ネイチャーポジティブを実現し、豊かな自然を未来へつなぐまち岡山
案2	森、里、川、海、人がつながって生きもので季節を感じられるまち岡山
案3	生きものの命と人の暮らしをつないでいくまち岡山
案4	自然のめぐみを活かし、持続可能な社会を実現するまち岡山
案5	水と緑の恵みを活かし、自然と人が共生するまち岡山
案6	普通種が普通に見られ、豊かな自然を感じるまち岡山



(2) 施策体系の頭出し

基本戦略

生物多様性を守る：生きものが暮らす多様な環境の保全と創出、再生

生物多様性を活かす：自然を活用した地域づくり

生物多様性を支える：生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり

状態目標

生物多様性を育む水辺（水路、水辺ネットワーク）が維持・強化されている

生物多様性を育む里地里山や緑地、農地の保全がなされている

生物多様性の回復・創出が進み、市域の生態系ネットワークが形成されている

生物多様性を著しく損なう外来生物対策が推進されている

グリーンインフラなど自然を活用した解決策が地域で取り入れられている

持続可能な農林水産業の促進による地域づくりが進んでいる

生物多様性を意識したライフスタイルへの転換が進んでいる

生物多様性を支える人が市域に増えている

生物多様性に関わる情報拠点があり、情報の収集・蓄積・活用がされている

生物多様性について正しく学び、実践している

生物多様性について様々な主体との連携による事業が進んでいる



(2) 施策体系の頭出し

基本戦略

生物多様性を守る：生きものが暮らす多様な環境の保全と創出、再生

状態目標

生物多様性を育む水辺（水路、水辺ネットワーク）が維持・強化されている

生物多様性を育む里地里山や緑地、農地の保全がなされている

生物多様性の回復・創出が進み、地域の生態系ネットワークが形成されている

生物多様性を著しく損なう外来生物対策が推進されている

ターゲット、ねらい

生物多様性、生態系（種、場）

生物多様性、生態系（種、場）

遊休農地、放棄地等の劣化地等

外来生物（特定外来等）、ペット（メダカ等）の適正管理

生物多様性を活かす：自然を活用した地域づくり

グリーンインフラなど自然を活用した解決策が地域で取り入れられている

持続可能な農林水産業の促進による地域づくりが進んでいる

防災、減災、グリーンインフラ

獣害、地産地消、市民との連携

生物多様性を支える：生物多様性を育む人づくり・仕組みづくり

生物多様性を意識したライフスタイルへの転換が進んでいる

生物多様性を支える人が市域に増えている

生物多様性に関わる情報拠点があり、情報の収集・蓄積・活用がされている

生物多様性について正しく学び、実践している

生物多様性について様々な主体との連携による事業が進んでいる

行動変容

人材育成

情報発信、モニタリング、市民参加型調査

ESDの推進

市民、企業、団体との連携、マッチング

